

平成30年度 学校経営計画 足立区立宮城小学校

校長 藤井 基人

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、社会の急激な変化に主体的に対応できる、知・徳・体の調和のとれた、人間性豊かな児童の育成を目指す。

なかよく 元気に がんばる 宮城の子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<u>保護者、地域社会に信頼され、ともに歩む学校</u> ・質の高い教育を提供し、士気の高い校風を創る学校 ・児童の健やかな成長を通して信頼を得る学校 ・児童も教師も保護者も共に学び、共に成長する学校
○児童・生徒像	<u>なかよく、元気に、がんばる 宮城の子・・・教育目標</u> ・なかよく・・・豊かな心、望ましい人間関係、社会貢献力 ・元気に・・・健康な心と体、基礎的生活習慣の確立、たくましい意志と体力 ・がんばる・・・確かな学力、問題解決能力と態度、創造力、表現力 ・宮城の子・・・自らの存在や学力に自信をもつ、地域への感謝と誇り
○教師像	<u>児童、保護者、地域社会の期待と信頼に応える教師</u> ・学校組織の一員として、自己の力を十分に発揮し、職責を果たす教師 ・主体的、創造的に教育活動を展開する教師 ・研究実践を日常化し、児童とともに、自らも成長しようと努力する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

学校の現状

○児童

明確な目標をもつと、目標達成に向け努力を積み重ねることができる。本校の特色である集団登校、縦割り班活動などを通し異学年間の交流が盛んで、上級生が下級生をいたわり、下級生が上級生を尊敬する姿勢が身に付いている。集団登校実施のため、遅刻や長期欠席の児童は少ない。学習面で、基礎・基本の定着は向上してきた。荒川、隅田川に囲まれた地域のため、他地域との接触が少なく、切磋琢磨する機会が少ない。

○教員

若手教員、臨時的任用教員の比率が高い。そのため指導力の向上が必要であり、この2年間で増加した主任教諭がOJTの推進役を担っている。PTA行事や週休日の地域行事には、積極的に参加する姿が見られる。

○保護者、地域社会

川に囲まれた地域にある唯一の小学校として、昔から地域に愛されてきている。隅田川沿いのマンション建設により児童数が増加した。昔から住んでいる保護者の方、新たに転居してきた保護者の方ともに学校に対し協力的である。

成果

- 基礎・基本の確実な執着を目指した授業改善が実を結びつつあり、区学力調査通過率が80%を超えた。
- 体力調査で、従来よかった持久力以外にも上体起こしや立ち幅跳び、50m走などの記録が向上した。
- 高学年が手本となり、何事にも全力を出す校風が深まった。
- 地域内の中学校、保育園、幼稚園との連携が深まり、より内容が密になった。

課題

- 授業改善で、基礎・基本の定着に向上は見られたが、今後、思考力や表現力の向上を図る必要がある。
- 情緒面で不安定で個別の支援が必要な児童が増加しつつある。担任だけでなく、新たに始まる特別支援教室をはじめとして学校全体で組織的に対応するとともに、関係諸機関との連携を深めより良い方向性につなげる。

4 重点的な取組事項						
番号	内容	実 施 期 間				
		28	29	30	31	32
1	学力向上	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心、健やかな体の育成	○	○	○	○	○
3	小中、幼保小、地域・家庭との連携	◎	○	○	○	○

5 平成30年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上	
A 今年度の成果目標		平成30年度区学力調査 目標通過率（学校平均）	
区学力調査目標通過率向上		H29 81.6% ⇒ H30 83%	
B 前年度の取組み内容			
項目		具体的な方策	
基礎・基本の定着		・年3回、学力調査の再調査を行い、SP表作成を通し児童の習熟に応じた指導を行う。 ・基礎学習の時間、パワーアップタイムを設定し、補充学習に取り組む。 ・漢検、数検を学校をとして実施し、学習意欲の向上につなげる。 ・本に親しみ、読書習慣確立のため、年3回の読書旬間の設定。図書ボランティアさんと連携し、毎金曜朝に本の読み聞かせを行う。	
教師の授業力向上		・学力定着指導員訪問日に、管理職との打ち合わせを行い、教員の現状・課題を確認する。 ・主任教諭5名にそれぞれOJT対象者をつけ、毎月授業観察を行い指導する。	
家庭学習・補充学習の充実		・学習状況を家庭へ知らせる「かがやき」を作成・配布し、長期休業期間中の家庭学習のめあてをもたせる。 ・家庭学習の習慣が定着していない児童については、放課後個別に指導を行う。 ・夏季補充教室を夏季休業後半にも設け、学習の継続を容易にする。	
C 前年度の成果と課題			
○昨年度から継続して取り組んできた、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られ、区学力調査通過率80%越えに繋がった。この結果をこれからも続けるよう、SP表・ポートフォリオ分析による個々のつまづきの把握や、分析を通した基礎・基本の定着の徹底を継続して図っていく。 ○授業規律確立のため、生活指導部から、学校に持ってきて良いものの確認や挨拶方法の徹底を図った。加えて、足立スタンダードの浸透により、児童の授業に対する意欲の向上も見られた。 ○毎日宿題を出すことを約束し、保護者と連携し家庭学習の習慣定着が図られた。来年度は、中学校と連携した家庭学習の在り方を深めてゆく。 ●区学力調査の分析から、低学年の習熟が低い。1年生から習熟に応じた指導を行い、個に応じた指導方法を工夫し基礎的、基本的事項の確実な定着につなげる。 ●都、国調査からも基礎・基本の定着向上がわかったが、思考力、判断力表現力などの活用力をさらに伸ばす指導方法を工夫する必要がある。			

D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
基礎基本の定着を基とした、思考力・判断力の向上	- 区学力調査における通過率 83%以上。 都、国調査の活用問題を75%の児童が再テストで達成。	- 始業前の朝読書で、心を落ち着かせ学習に臨む心構えをもたせる。 - 水曜 5 校時に「基礎・基本の時間」を設定し、個の習熟に応じた課題に取り組ませる。
教師の授業力向上	授業に関する児童、保護者アンケートで 85%以上が肯定的な回答。	- 管理職による毎日の授業観察と指導・助言。教科専門指導員による計画的な授業立案と事後指導による授業力の育成。 - 主任教諭が毎月 1 回以上 OJT 対象者の授業を観察し指導する。
家庭学習・補充学習の充実	低 20 分、中 40 分、高 60 分の家庭学習(宿題・読書など)95%	- 自学自習ノートを活用し、主体的な家庭学習の習慣を定着させる。 - 長期休業明けの生活リズム、学習習慣のリズムを整えるために「いきいき生活がんばりカード」を活用する。 - パワーアップタイム、放課後補充教室などの補充学習を確実に実施する。

重点的な取組事項－ 2		豊かな心、健やかな体の育成
A 今年度の成果目標		達成基準
望ましい人間関係づくりと、体力の向上を図る。		- 異学年交流行事の完全実施。 - スポーツテスト、都平均値達成。 - いじめの早期発見、対応、解決。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
・児童間交流の活性化	- 毎朝の集団登校。 - 縦割り班活動、年 10 回。縦割り班での「宮城まつり」9 月開催。	- P T A と連携し、一年間を通し登校班による集団登校を実施する。 - 縦割り班活動、クラブ活動、委員会活動など特別活動において、児童の自主性をさらに伸ばすような指導を工夫する。また保護者に児童の様子を見ていただくために、本年度より宮城まつりを公開する。
・体力向上	- スポーツテスト 8 種目、6 学年、男女計で、68%以上の項目で都平均を上回る。 - 投力については、12 月調査より 5 %向上を目指す。	- 本校の課題である柔軟性を高めるための学習カードを作成し、児童が主体的に取り組めるようにする。 - 遊具や学級配付用具の活用カードを作成し、休み時間を活用しての体力向上を図る。 - 投力向上のため、体育の学習以外でも、学級配付の用具を工夫し、投げることを身近に感じさせる。
- いじめへの意識が高い学校 - 不登校の未然防止	- いじめ一覧表への確実な記入と毎月末には共通理解。 - 欠席児童への確実な連絡。	- 児童の心情を受け止め、悩みを早期に発見・解決できるように、S C 等と連携し組織的に対応できるようにする。 - 生活指導夕会を毎金曜に実施し共通理解を図るとともに、全校体制での解決を図る。 - 連絡のない欠席児童に対し、朝、養護教諭、管理職から電話連絡を行い、当日内に必ず欠席理由を確認する。

重点的な取組事項－３		小中、幼保小、地域・家庭との連携
A 今年度の成果目標		達成基準
中学校、保育園、幼稚園、地域・家庭との連携を深める。		・幼、保、中との連携計画完全実施。 ・学校評価「学校からの発信」肯定的評価80%以上。
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
江南中学との連携	・小中合同研修で、言語活動を基にした系統性のある指導方法の確立。 ・児童・生徒間交流年5回以上実施。	・9年間の系統性を意識した授業における共通理解事項の明確化。 ・3つの教科部会で言語活動の手立てを作成。 ・4年生以上で自学自習ノートを活用し、中学校生活を見据えた家庭での自主学習の習慣の定着。 ・発展的学習を促す漢検、数検、英検の共同実施。 ・中学での授業・部活動体験。合唱コン観、合同百人一首大会、ソーラン節指導、中3アシスタントティーチャー、合同オリパラ教育などの児童・生徒交流の実施。
幼稚園、保育園との連携	・1年生が落ち着いた学校生活を送っている。 ・教員全員が保育園参観を実施。 ・年間2回の児童・園児交流の実施。	・第1週目から1ヶ月スタートカリキュラムを実施し、長期休業前までに見直し、次年度につなげる。 ・長期休業終了までに全教員が保育園を参観する。 ・近隣3園が来校し、体験学習・給食の実施。
地域・家庭との連携	・学校行事後に素早くHP更新。 ・地域行事に毎回教員が参加する。	・学校行事、不審者、感染症、災害などの情報をメール配信で保護者、地域に効果的に周知する。 ・地小協、地区対、町会行事、小中合同PTA行事、PTA行事等への職員の参加を通して地域との連携を図る。